

研修報告/研削砥石取替え等の業務特別教育

酒見, 亮佑
九州大学応用力学研究所

<https://hdl.handle.net/2324/1956637>

出版情報 : 九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート. 19, pp.59-59, 2018-10. Research
Institute for Applied Mechanics, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

研修報告／研削砥石取替え等の業務特別教育

酒見 亮佑

1. 出張・研修等の名称

研削砥石取替え等の業務特別教育

2. 開催場所・開催期間

開催場所：福岡市立 南市民センター（福岡市南区塩原）

開催期間：2018年1月31日（水）

3. 出張・研修等への参加目的

研削砥石取替え等業務に関する知識および技術の習得。

4. 出張・研修等の概要

自由研削砥石の取替および試運転業務に携わる者は、関係法令により特別教育の受講を義務付けられている。なお、グラインダー等の砥石の取替や試運転業務を一切行わず、機械を使用することだけに限定する場合は、この限りではない。自身については、当該業務に携わる可能性があったため、福岡市立南市民センターにて特別教育を受講した。本講習会の参加者は39名で、学科および実技形式で行われた。講習時間は計6時間で、そのうち学科が4時間、実技が2時間であった。以下に、講習の詳細について記す。

学科では、配布されたテキストを基に「自由研削盤に関する基礎知識」「自由研削砥石の取付方法および試運転方法」「災害事例と対応策」「関係法令」について学んだ。実技では、ディスクグラインダーを使用し、研削砥石の取替作業および取替後の試運転を行った。なお、作業は一人ずつ行い、自身の順番でないときには、他の受講者の作業風景を見学した。参加者が多数いたため、一人当たりが実技に要した時間は2分程度であった。全日程終了後、修了証書を受け取り、解散となった。

5. 所感

グラインダーによる研削作業はアーク溶接同様、粉じん作業に分類されているため、保護めがねや防じんマスク等の保護具を着用することが重要だと学んだ。これまで、グラインダーの使用頻度は工作機械の中でも比較的高かったものの、保護具の着用を怠る傾向にあった。この点は反省し、今後の作業時には保護具の着用を徹底することで、粉じんによる発病を未然に防ぎたい。また、機会があれば「粉じん作業特別教育」を受講し、粉じん作業に潜んでいる健康被害について、知見を増やしたい。

6. 特記事項

研削砥石取替え等の業務特別教育の修了